安佐地区呼吸器疾患研究会での講演を終えて

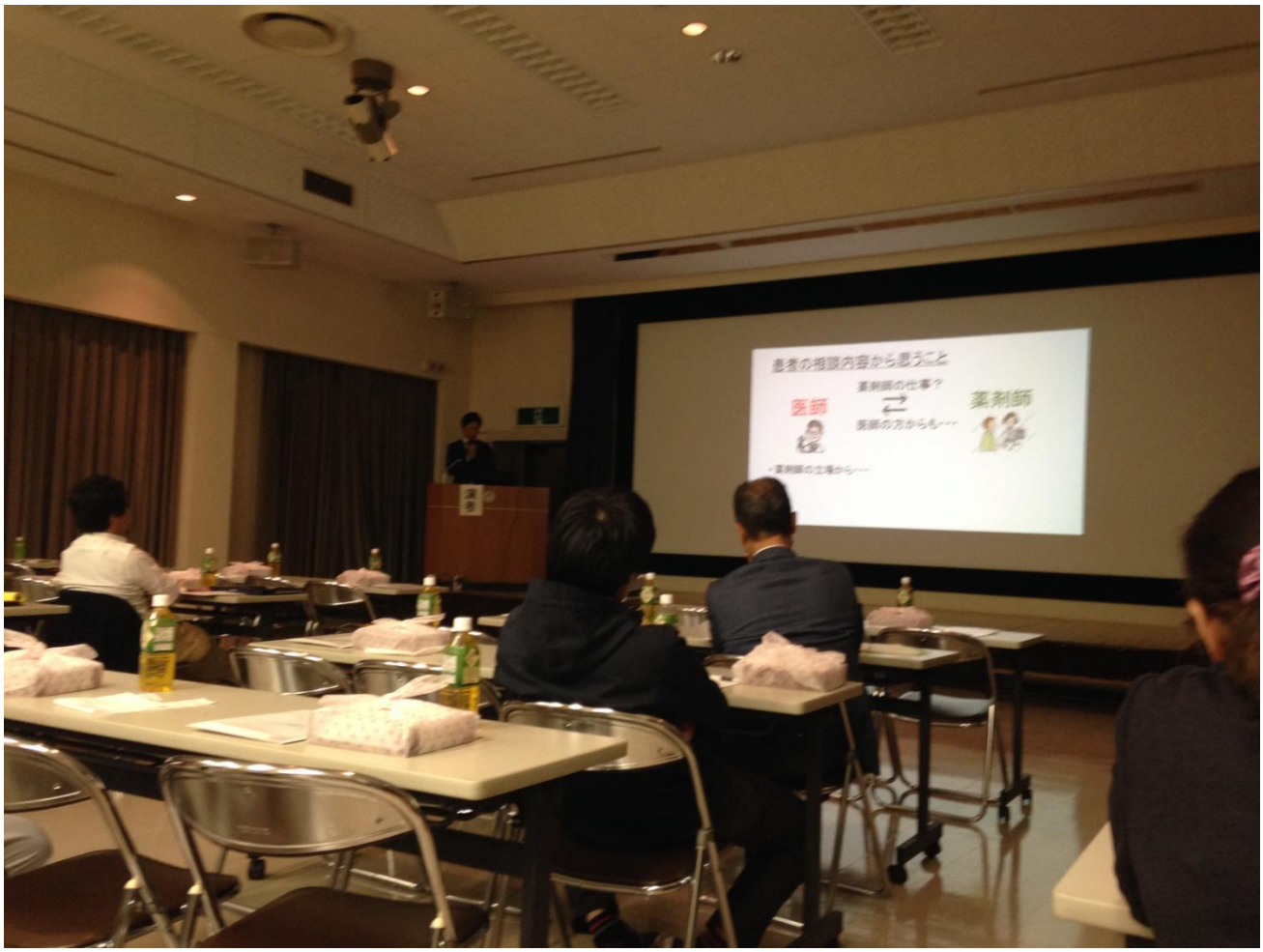
口田薬局　新佛暢康

去る 11 月 5 日に、安佐地区医師会館で開催された安佐地区呼吸器疾患研究会の一般講演の部で、「呼吸器疾患治療向上のために　～薬剤師の目線から～」という演目で講演させていただきました。出席者数は医師 14 名、薬剤師 15 名の計 29 名で、先日、安佐薬剤師会会員薬局の薬剤師のみなさまにご協力いただいた、「薬剤師の本音のアンケート調査」の結果を基に、普段薬剤師が感じている「医師-薬剤師連携、及び、呼吸器疾患治療に関する患者アドヒアランスについてどのように考えているか」という内容で、私自身の考え方も踏まえながらお話させていただきました。

そもそもこの研究会は、呼吸器疾患治療薬が専門医以外でも簡単に処方されるようになった一方、患者に正しい呼吸器疾患治療が行われていない現状もあるとの危惧から、安佐市民病院、呼吸器内科部長の菅原先生を中心に発足されました。そしてこの会に、今年から安佐薬剤師会の代表として私が担当させていただくことになり、その世話人会の場で、「薬剤師の服薬指導以外に医師の患者に対するコミュニケーション不足からも、患者の呼吸器疾患治療に対する継続意欲が失われている現状があるのではないか」というお話をさせていただきました。
自分としては、疾患や薬について、いくら医師や薬剤師が勉強を続けたところで、そのことを実際に治療を受ける患者に理解してもらえるように伝えることができなければ、いくら勉強を続けても全くの無駄だと言っても過言ではないかと思います。ですので、患者が薬局でこぼす呼吸器疾患治療に対する疑問や不安を、医師の先生方はどこまでご存じなのかということを、患者から相談される機会の多い薬剤師からすると知りたいという思いを、この会の世話人でらっしゃる医師の先生方にご共感いただき、このような機会をいただくことになったわけでございます。

自己判断で薬を調節している患者が多い中、薬剤師の服薬指導が重要であることも伝えながら、なぜこのような患者が出てきてしまうのかという原因のひとつとして医師のコミュニケーション不足があるのではないかという思いは以前から私の中にもありましたが、今回のアンケート結果にもそれと同じような思いを持ちながら、日々の業務をこなされて薬剤師の方々の存在があうことを知り、ますますこの現状を医師に伝えなければならないとの使命感にかられました。

呼吸器疾患治療以外でも当てはまることですが、患者に正しい治療を受けてもらうために必要なことは、患者に病気や治療の内容を理解してもらうことから始まると思います。それがなければ、ゴールの見えない治療の継続は大変難しいと思います。そのためには薬剤師の力だけでは到底不可能で、医師の力が大変重要であることは勿論、それと同時に、医師-薬剤師連携が必須であることが今回のアンケートの結果から医師の先生方に薬剤師の本音として、今回の講演でお伝えできていれば幸いです。

最後に、疑義照会の時の医師の対応についての意見が多かったため、医師-薬剤師連携を充実させていく意味で、疑義照会についても少し触れさせていただきました。医師が診察、処方し、薬剤師が調剤、服薬指導するというのが今や当然とも言える、自然の流れとなっておりますが、薬剤師から医師への疑義

照会という流れが、未だ不自然な流れとして捉えられている現状がアンケート結果上では少なからずあるようです。真の意味での医師-薬剤師連携の発展のためにも、この関係性も見直されていくきっかけに今回の講演がお役に立っていればと願っております。